



### 取手市気候非常事態宣言とは

地球温暖化を原因とする世界規模での気候危機に対して、市民と危機意識を共有し、共に解決を目指すことを目的とした宣言です。

※宣言では、4R (Refuse: 不要なものは買わない・受け取らない、Reduce: ごみを減らす、Reuse: 繰り返し使う、Recycle: 再生して利用する) と再生可能なエネルギーの推進、他市町村との連携などを取り組みの方針としています。



取手市気候非常事態宣言

**斉田** 市民と危機感を共有し、行政と市民が一体となって、できることから少しずつでもいいので、実践していくことが大切です。再生可能エネルギーの導入にはコストもかかりますが、積極的に活用してもらうことが必要だと思います。

状況が悪化していくと、まともに影響を受けるのは今の子どもたちです。社会全体が真剣に考えていかなければならないですね。

### 3 大規模化する災害に備える

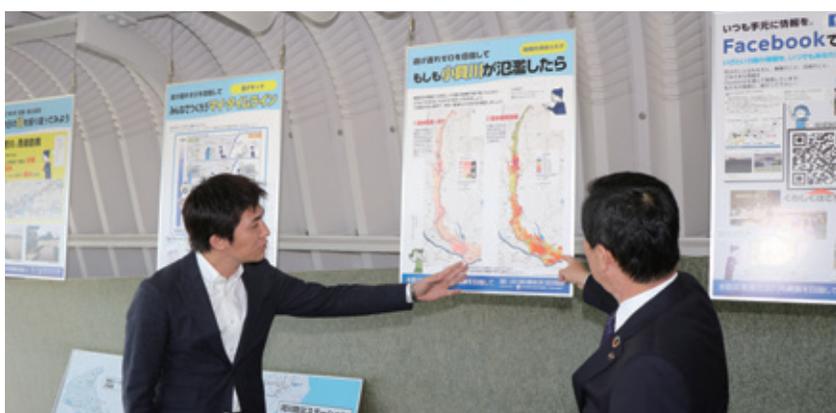
**藤井** 海水温が上昇したことで、近年の豪雨や台風の大型化に結び付いているようですが、ここにも温暖化による影響が出ていますね。

**斉田** 全てが温暖化の影響と言い切ることはできませんが、気温が上がるとその分空気中に含まれる水蒸気が増え、一度に降る雨量が増えることが分かっています。

ここ10年、大規模な災害が各地で同時に発生するケースが増えました。平成30年の西日本豪雨は、温暖化の影響を受けて広範囲での豪雨になったと考えられます。一度にいくつもの川が氾濫してしまうと、自治体やメディアによる避難の呼び掛けが間に合わないことがありました。情報を受け取るだけではなく、一人一人が情報を取りに行くことで、自分の身を守ることができると思います。

**藤井** 令和元年の台風19号も記憶に新しいところです。県内の那珂川・久慈川など全国約140カ所で堤防の決壊による被害が発生しました。そのような時には、近隣の自治体同士で助け合うこともできない状況になってしまいます。利根川や小貝川などの川が流れる取手市では、より一層早めに対応する必要があると感じています。

**斉田** 川の広域災害は問題になっています。取手市の洪水ハザードマップを見ると、浸水する地域が多いです。避難は建物の上の階に避難する垂直避難だけではなく、高台などへの立ち退き避難も必要となります。



**藤井** 市内での避難以外の選択肢がとれるよう、近隣の自治体と協定を結び災害に備えています。

また、浸水しやすい地域であることを自覚し、安全な地域にお住まいの親戚や知人宅に避難するなど、災害に対する各家庭での備えを呼び掛けています。

私自身も、災害時に携帯電話が使えなくなることを想定し、家族の電話番号などを記したメモを持ち歩いています。

**斉田** 現在は、マイ・タイムライン(※2)を活用した備えも推奨されています。事前に家族と話し合い、どこに避難するのかなど時系列に応じた行動がとれるよう、計画を立てておくことが大切だと思います。

※2 マイ・タイムラインとは台風の接近などによって川の水位が上昇するときに、自分がどう行動するのかをあらかじめ時系列的に整理した防災計画です。



### 4 気象情報を活用する

**斉田** 適切な準備や避難を行うためには、気象情報や防災情報を自分自身で調べることが大切です。気象庁のホームページには「キキクル(危険度分布)」(※3)というコンテンツがあります。

自分の住んでいる場所がどれだけ危険な状況になっているか、災害ごとにリアルタイムで確認することができますし、土砂災害警戒区域や川が氾濫したときに想定される浸水の深さなども重ねて見ることができます。そういった情報を使いこなせるようになることが大切です。

※3 キキクルとは「土砂災害」「浸水害」「洪水害」が、どこで、どのレベルの危険として迫っているかを色分けし一目で危険度が分かるようにしたサービスです。



**藤井** スマートフォンなどを活用し、素早く情報を入手できる時代になりました。気象庁が発信しているさまざまな情報は、子どもたちにとってもいい教材として活用できると思います。

**斉田** 「キキクル」はそれぞれの災害について、レベルごとに色分けして表示されます。視覚的に分かりやすいので、子どもたちの学習にも適していると思います。子どものうちから、気候変動や防災に興味を持って欲しいです。

### 5 一人一人が行動を

**藤井** 最後になりますが、市民の皆さんに一言メッセージをお願いします。

**斉田** 気候変動への対応は、一人一人が関心を持つところから始まります。小さな取り組みを続けることで、子どもや孫さらにはその次の世代に、この地球を残していきましょう。

災害に備えるうえで、取手市は利根川や小貝川などの川がある地域性からハザードマップを活用して、自分の住んでいる場所にどのような危険があるかを知ることが大切です。避難する時期や場所などを事前に考えて、気象情報を活用してください。

**藤井** ありがとうございます。一人一人の行動につながるよう、環境問題・防災に対する取り組みを市民の皆さんと一緒に進めていきます。